

風しん抗体検査を受けましょう！



《無料クーポンの期限が延長されます》

対象者 昭和37年4月2日～昭和54年4月1日生まれの男性

対象となる年代の男性は特に風しん抗体保有率が低く、全国的に抗体検査と予防接種を受けることが勧められています。対象者には、令和3年度中に「風しん抗体検査」が無料で受けられるクーポン券を既に送付していますが、クーポン券に記載されている期限にかかわらず、**令和5年2月28日（火）**まで無料クーポン券が使用できるよう、期限が延長されました。この機会に、ぜひ抗体検査を受けてください。

また、抗体検査で予防接種が必要と判断された場合は、予防接種も無料で受けられます。

抗体検査を希望する人は…

1. お手持ちの無料クーポン券を確認する。
※期限が過ぎていても、そのまま使えます。紛失した場合は再発行できますので、町健康福祉センター（電話 72-1852）までお問い合わせください。
2. お近くの医療機関のほか、職場などの健診時に受けられる場合があります。
事前に医療機関にご確認いただくか、お勤め先の健診担当者にお尋ねください。
3. クーポン券を持参し、検査を受ける。
検査の結果、予防接種が必要と判断された場合は、予防接種も無料で受けることができます。



【問合せ先】町健康福祉センター（電話 72-1852）

生きる・つながる・支えあう

3月は「自殺対策強化月間」です。

国は、月別自死者数の最も多い3月を「自殺対策強化月間」と定めています。自死の原因には、健康の問題や経済・生活の問題、うつ病など、さまざまなことが複雑に関係していると言われています。

～こころの相談窓口～

相談窓口	電話番号
西部総合事務所米子保健所	0859-31-9310
鳥取県立精神保健福祉センター	0857-21-3031
鳥取いのちの電話	0857-21-4343



ひとりで抱え込まず
早めに相談しましょう。

認知症の周辺症状ーその①

「財布を盗られた」もの盗られ妄想

日野病院 病院長 孝田 雅彦

日野病院の孝田雅彦病院長が、さまざまな病気や健康について、その予防法や健康に過ごすための豆知識などお役立ち情報をお届けします。



認知症の記憶障害による もの盗られ妄想

「財布を盗られた」「ご飯を食べさせてもらっていない」

これは認知症の患者さんでよく見られる訴えです。これに易怒性、怒りっぽくなる症状が加わると暴言、暴力へと進んでしまいます。「財布を盗られた」「お金を盗られた」などは頻回に起こり、身近な人、家族や世話を焼いてくれる近所の人を犯人と思ひ込むことが多く、またそれを周りに言いふらします。

認知症と分かっている、犯人にされた人はつらい気持ちになりますし、家族であれば恨みが絶えなくなり、友人であれば疎遠になってしまいます。実際には別の場所に財布を置いてそのことを忘れてしまっている

ことが多いのですが、認知症の記憶障害で忘れてしまい、自分が忘れたことを認めたくない、盗まれた可能性もあると考え、現実と想像の境界が不明瞭になっているため、盗まれたという考えが現実になってしま

ます。

したがって、その妄想を否定しても本人にとってはそれが現実なので、なぜ私を信じないのかと怒り出してしまいます。認知症における妄想は否定すべきでなく、傾聴するということが多くの書物に書かれていますが、現場ではそうもいかない場合もあります。

しかし、認知症の患者は孤独感、疎外感を感じていることが多いので、相づちを打ちながら話を聞き、ゆつくりと別の話題に持っていくのがいいのかもしれない。ただし、興奮状態には一旦離れて様子を見る方が無難でしょう。

アルツハイマーが疑われたら 一度相談を



アルツハイマー型認知症の初発症状は、多くの場合物忘れです。しかし、健常高齢者でも物忘れはよく見られる症状です。で、この区別が大切です。

物忘れの性状からある程度判断できます。しまい忘れや置き忘れ、同じことを何度も言うのは高齢者でもみられます。約束事や以前言ったことを忘れる場合は、アルツハイマーを疑います。前日のことやさっき言ったことを忘れる場合はアルツハイマーの可能性がかなり高く、直前のことも忘れるときは、ほぼアルツハイマーと考えられます。アルツハイマーを疑う段階になれば、一度内科あるいは神経内科に相談されることをお勧めします。認知症の患者と適切に接するには、認知症のことを知っておくことが大切です。

